

平成30年度 中央区立佃島小学校 自己評価報告書

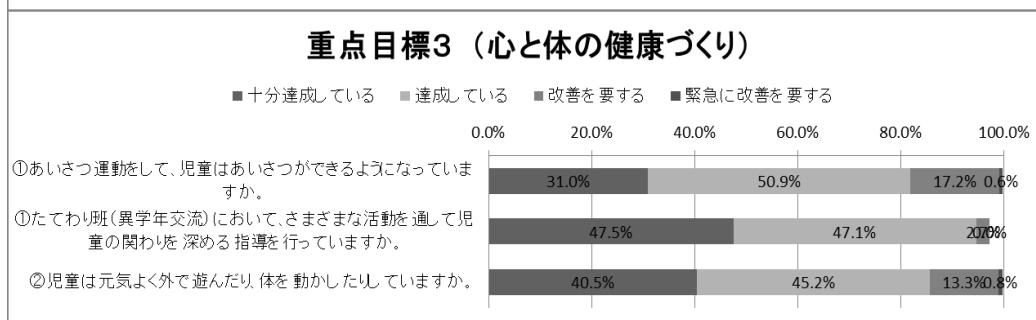
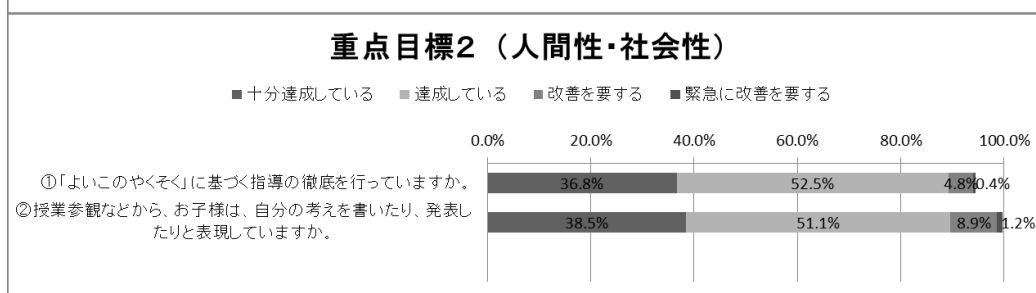
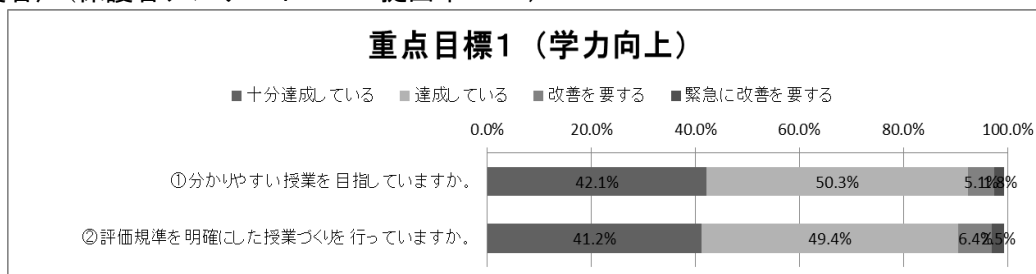
学校名 中央区立佃島小学校 所在地 中央区佃2-3-1

校長 三木 滋

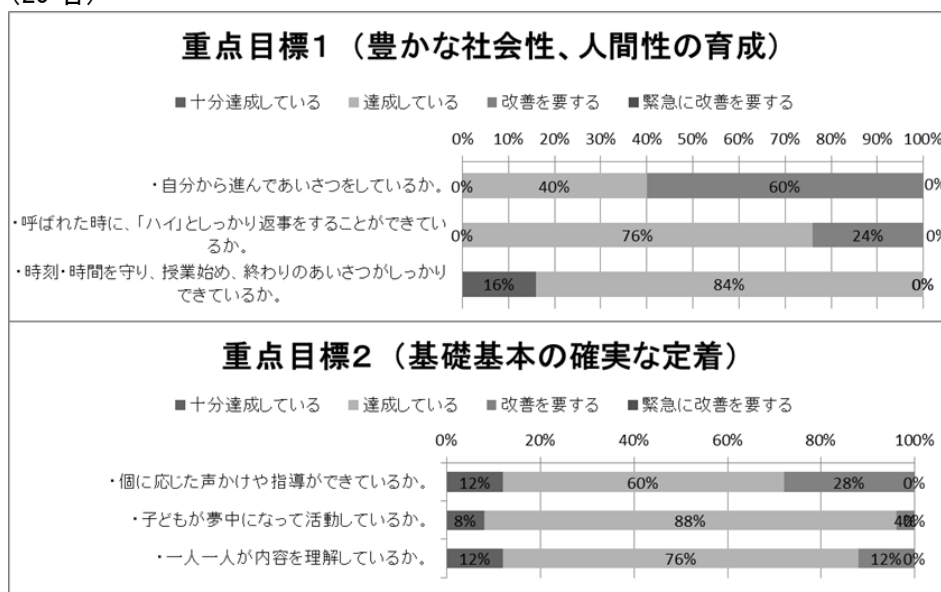
児童数 748名 学級数 22 教員数 30名 職員数 21名 (H31.3.8 現在)

1 重点目標の達成状況及び取組状況

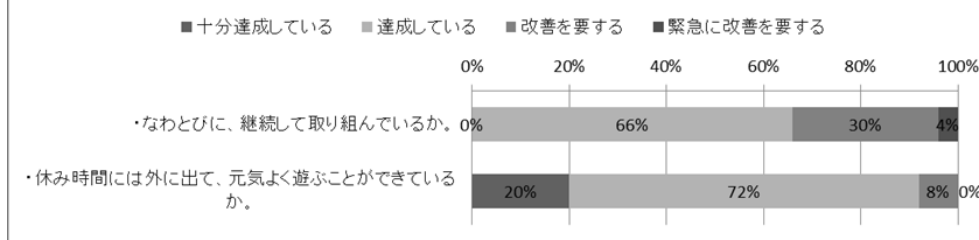
〈保護者〉(保護者アンケート 487: 提出率 65%)



〈教員〉(25名)



重点目標3（生涯を健康に過ごす素地の育成）



重点目標1「学力向上」

保護者、教員共に90%以上が達成していると評価している。日々の授業の充実を目指して授業改善に取り組んできているが、その様子を学校公開やお子様の様子等でご覧いただけたものと考えている。また、児童アンケートで、「授業の内容はよくわかりますか」という項目において、95%以上が「よい」とする肯定的な回答であった。学ぶことが楽しいと子どもが感じられる授業となるよう今後も授業改善を行い、授業内容の充実を図っていく。

重点目標2「人間性・社会性」

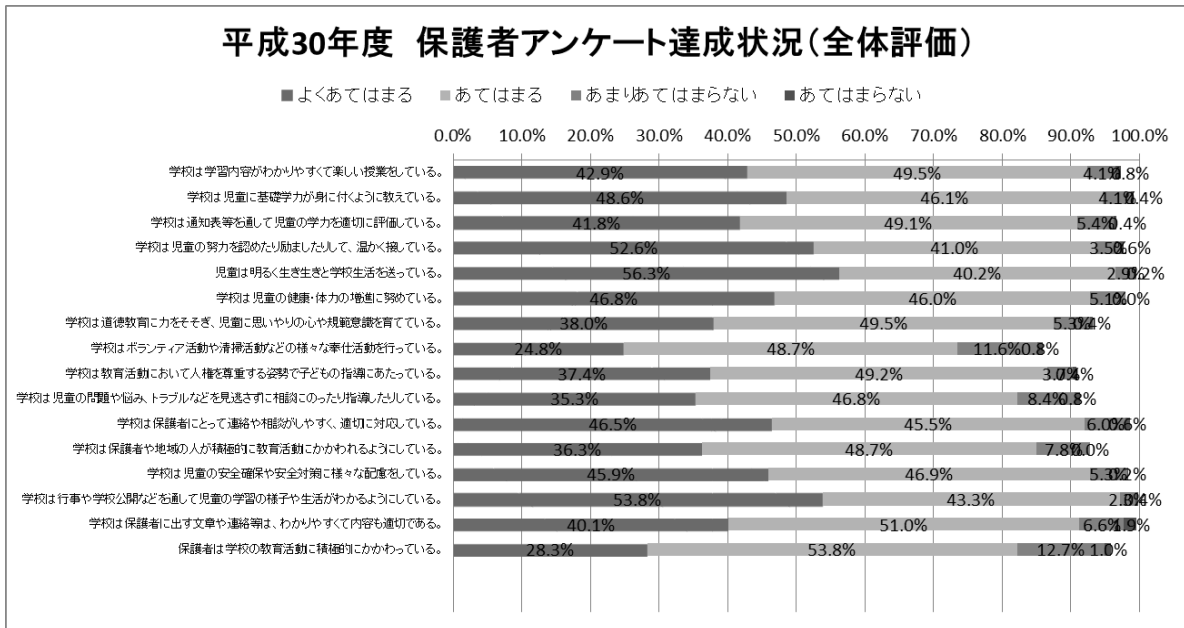
まず、「よいこのやくそく」の徹底を行った。教員の共通理解のもと指導をすることで、約束を守り行動できる子どもが増えてきている。特に、チャイム着席、授業の開始・終了のあいさつについては、しっかりとできるようになり、学習意欲も高まってきている。全教員が徹底した指導を行うことで、子どもの成長に直接的な影響を与えることが明らかとなった。また、「主体的・対話的な深い学び」を目指した授業づくりですが、保護者には、授業参観等での具体的な場面として、「自分の考えを書いたり発表したりと表現していますか」という内容で評価をしていただき、90%近くの評価であった。子どもが主体的に学習をするためには、興味・関心や知的好奇心を揺さぶる授業づくり、自ら説明したくなる、知りたくなる話し合い活動の工夫が大切である。引き続き質の高い授業ができるようにしていく。

重点目標3「心と体の健康づくり」

今年度も、あいさつに重点を置き、学校全体で取り組んだ。代表委員会や学級ごと毎朝玄関に立ち、あいさつ運動を行った。そのことで、あいさつの意識が高まり、元気よくあいさつができる子どもが多く見られるようになった。その結果、保護者は80%近くという評価であったが、教員からみると、55%程度しか達成していないという評価であった。毎年の課題である。学校での取り組みに関しても、まだまだ改善が可能であると考え。あいさつは続けることが大事であると感じている。家庭でも、進んであいさつをすることを繰り返し指導することをお願いする。また、たてわり班活動について95%近くの評価をいただいている。学校公開におけるハッピーフェスティバルや月1回程度の中休みたてわり遊びなど、異学年交流の大切さを感じている。児童数は多いが、児童同士、普段から互いに声を掛け、気にかけて、思いやる気持ちをもてるよう引き続き指導していく。

体の健康づくりについては、児童アンケートで「体を使って遊んだり、スポーツしたりするのが好き」という肯定的な回答が85%であった。一方、体力調査等から運動が好きであるが、体力、運動能力に課題が見られることがわかった。3年間の体育の研究を今後も生かしていくことや、休み時間の外遊びの奨励をしていく。

2 全体の評価 ＜保護者のみ＞



◇全体の評価について

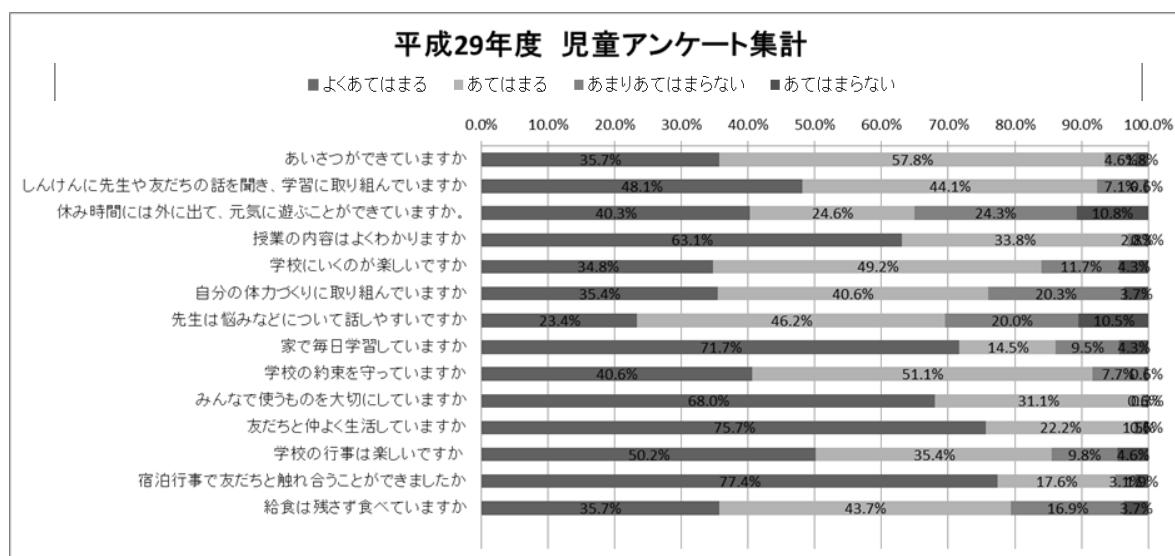
本年度も保護者アンケートでの達成状況として16項目中15項目で80%以上達成しているとの評価をいただいた。本校が児童の教育に努力している状況を肯定的に受け止めていただき、適正に行われていると評価をいただいた。

「よくあてはまる」と評価していただいた点に着目すると、「児童の様子や生活が分かるようにしている」、「明るく生き生きと学校生活を送っている」「児童の努力を認めたり励ましていたりして、温かく接している」が全項目の上位3つとなっており、学校として、この項目に対して、高評価をいただいた。今後とも、保護者の皆様と連携を密にし、一人一人の子どもたちが生き生きと生活を送ることができるよう全力を尽くす。

しかし、奉仕活動については、73%程度の評価であった。評価できないという方も多く見られた。具体的な活動が見られなかったためと考えている。子どもたちが周囲の人々や地域のために何かを行うことに喜びを感じるような取組を考えていく。

最後に、90%以上評価をいただいている項目が、10項目もあった。次年度も引き続き全教職員、全力で、児童の指導にあたる。

3 児童アンケートの結果（4・5・6年生）



◇児童アンケートについて

14項目中13項目について「よくあてはまる」「あてはまる」という評価が80%以上となっています。全体的に達成度や満足度が高かったことが分かる。

特に「授業の内容はよくわかりますか」については95%以上が「よい」と評価している。子どもたちが意欲的に取り組み、理解することで、達成感や満足感を得て、自信をつけていることができている結果であると考えています。今後も「わかる、できる、楽しい」授業をめざしていきたいと考える。また、あいさつの項目ですが、85%が「よい」と評価している。しかし、教員の評価と大きく違いが見られる。子どもたちの「あいさつ」と教員がめざしている「あいさつ」に違いがあることは事実である。どういう「あいさつ」を目指しているのかを、指導をする必要があると考える。

一方、「先生は悩みについて話しやすいか」の項目は80%であった。昨年は約70%であったので、改善が見られているが、引き続きしっかりと児童の話を聞いて問題解決を図る事を通して、信頼関係を築いていけるようにしていく。また、家庭学習の項目がやや低いと感じている。高学年においては、自主的に学習ができるようになってほしいと思う。宿題は家庭学習を習慣付ける意味もある。宿題に加え、各家庭でお子様に合わせた学習をさらに進めていくとよいと考える。

4 最後に

「自分から進んであいさつができる子」「自ら学ぶ子」については重点をおいて指導していく方針である。